

官民連携によるSDGs推進人材の育成

愛媛県松山市 × 松山市SDGs推進協議会

取組概要

松山市と官民連携プラットフォームである「松山市SDGs推進協議会」が協働。市民のSDGs認知度が一定向上し、次のステップとしてSDGsの達成に向けた具体的な行動を市民に浸透させる必要があった。そこで、市民を牽引していく旗振り役として、養成課程を経た大学生を「松山市SDGs推進コンダクター」に認定。令和4年度は、8つの小規模小学校で児童と一緒に、それぞれの地域の特色を活かした取組を行っている。



松山市SDGs推進コンダクター養成講座



コンダクター各校代表と松山市長

基本情報

代表地方公共団体	愛媛県松山市
代表民間団体	松山市SDGs推進協議会
他の連携団体等	協議会会員団体（楽天グループ株式会社、JICA四国、国立大学法人愛媛大学、学校法人松山大学、松山東雲女子大学・松山東雲短期大学、学校法人聖カタリナ学園）
カテゴリ	教育プログラム・学力向上／地域振興・交流／文化／コミュニティ対策
事業費	—
めざすSDGsゴール	
事業化までの期間	6ヶ月

取組内容



小学校での活動の様子



連携の概要

この取組で解決した課題	松山市民のSDGs認知度が一定向上し、次のステップとしてSDGsの達成に向けた具体的な行動を市民に浸透させる必要があった。浸透にあたっては、課題や解決に向けた行動を自分事として捉え、自ら考え、動いてもらえる人が増えるなど、持続可能な行動の輪が広がっていくことが重要になる。そのため、それぞれの地域が抱える課題に対し、SDGsの視点から、時には教え、時には寄り添って考え、時には一緒に悩むことができるようなSDGs推進人材が求められていた。 また、今回舞台となった8つの地域では、市内でも特に少子高齢化が進んでおり、地域のにぎわい創出や若者のシビックプライドの醸成などが喫緊の課題となっている。
解決に向けた手法	そこで、教育委員会を含む松山市と松山市SDGs推進協議会の会員団体で連携し、人材育成と地域課題の同時解決を目指す仕組みを検討・実施。まず、特色のある学校づくりを促進するため地域の方々を巻き込みながら探究的な学習や体験活動を行っている小規模小学校8校を「SDGsアライアンス校」として認定。 認定を受けた小学校で児童とともに活動する人材を養成するため、市内にある4大学の協力のもと、SDGsに関心の高い大学生を募集。「松山市SDGs推進コンダクター」として育成する際には、会員団体である楽天グループ株式会社やJICA四国、愛媛大学が養成講座の講師や会場を引き受け、多様な視点から大学生にSDGsを教えた。 SDGsの知識を身に付けたコンダクターが外の目線を持って地域の人も参加する小学校活動に加わることで、学習や活動の中身をより深めるだけでなく、児童のシビックプライド醸成にも寄与している。

取組詳細

事業推進上の各団体の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> 松山市（教育委員会含む）：アライアンス校の認定、小学校との調整、大学生の募集・育成・派遣 小学校：コンダクター受入態勢の検討、地域住民との調整 松山市SDGs推進協議会：SDGsの知識や考え方、各会員団体が有する取組事例、教育上の児童との関わり方などを大学生に指導、会場の提供
地域関係者との連携方法	地域の歴史や文化の魅力を再発見することで、地域のにぎわいを回復させるような特色のある学校づくりにつなげるため、小学校の活動の中で地域関係者との連携が取られています。
資金調達方法	松山市の事業費については、内閣府の地方創生推進交付金を充当。
資金調達方法の補足	2022年度 松山市事業費：約200万円（うち地方創生推進交付金：約100万円） 同事業費を含む地方創生推進交付金は、令和2年12月から準備開始、令和3年4月に承認された。加えて、令和3年度に株式会社こっこー、株式会社スリーボードから企業版ふるさと納税をいただいたことで、特例措置を使い同交付金の期間が2年間伸びている。 また、講師や会場に関わる費用を各会員団体が協力してくれた。
事業推進上の課題・工夫	<ul style="list-style-type: none"> 募集時、大学生の興味や関心を引くため、事業を開始する際にメディアを使った打ち出しを行った。 コンダクターとして養成する際には、地域での活動に落とし込みやすくなるように、SDGsの基本を伝える講座だけでなく、個人の行動に関連する企業の取組や小学校で児童と活動する上での注意点、実際に活動を行う小学校の先生とその地域が抱える課題について話す時間を設けるなど、スムーズに活動に移ることができる内容を取り入れた。 また、大学生の活動意欲の向上につなげるため、認定式では、松山市長より1人ずつ認定証を授与。

担当者のコメント

当初は、大学生に興味を持っていただけるのかとても不安でしたが、想定より多くの大学生に応募していただくことができ、とても嬉しい結果となりました。若い世代のSDGsへの関心の高さ、地域貢献への思いを知ることができ、もっと多くの方に活躍していただける場所づくりにも取り組んでいきたいと思えます。

また、松山市SDGs推進協議会会員や教育現場の方々、地域関係者など、多くの方がこの取組に賛同し、協力いただいていることに感謝の気持ちでいっぱいです。



松山市SDGs推進協議会のロゴ

優良事例応募項目

取組のポイント（3つの視点）	<p>①地方創生SDGsの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> 地縁の深い少子高齢化が特に進んでいる郊外の小学校で取り組むことで課題解決を地域住民も自分事化 外の視点を持った大学生を核としたSDGs目線からの地域の魅力発信 地域のにぎわいの創出や子どもたちのシビックプライド醸成 地域が一体となった、良質な教育環境の構築 <p>②ステークホルダーとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政内部の縦割りに横串を刺す形で教育委員会と協働することで教育現場との円滑な調整の実現 小学校をハブとした地域住民の巻き込みとSDGsの推進 多様な知見・事例を持っている松山市SDGs推進協議会の会員団体と連携することで、多様な視点を持ったSDGs推進人材の育成 <p>③モデル性・波及性</p> <ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化はどの地方自治体も抱えている課題 地域の活性化、にぎわいづくりに向けた人材育成は急務 人材と地域住民の接合の仕方でも効果に差がでる <p>以上から、本事例は模倣しやすい仕組みとなっているため、全国で横展開できるモデルである。</p>
----------------	---